

ることもある。

(8.2.10) 式の兩基本式は次の如き形にも書き換へ得る。

$$e^{\pm jax} = \cos ax \pm j \sin ax$$

$$e^{\pm(\beta+ja)x} = \cosh(\beta+ja)x \pm \sinh(\beta+ja)x$$

であるから

$$\left. \begin{aligned} \dot{I} &= \dot{A}e^{\beta x} (\cos ax + j \sin ax) \\ &\quad + \dot{B}e^{-\beta x} (\cos ax - j \sin ax) \\ \dot{V} &= -\sqrt{\frac{\dot{Z}}{\dot{Y}}} [\dot{A}e^{\beta x} (\cos ax + j \sin ax) \\ &\quad - \dot{B}e^{-\beta x} (\cos ax - j \sin ax)] \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(8.2.11)$$

及び

$$\left. \begin{aligned} \dot{I} &= \dot{A}' \cosh(\beta+ja)x + \dot{B}' \sinh(\beta+ja)x \\ \dot{V} &= -\sqrt{\frac{\dot{Z}}{\dot{Y}}} [\dot{B}' \cosh(\beta+ja)x \\ &\quad + \dot{A}' \sinh(\beta+ja)x] \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(8.2.12)$$

$$\text{但し } \dot{A}' = \dot{A} + \dot{B} \quad \dot{B}' = \dot{A} - \dot{B}$$

定数 A, B を定める爲に送電端即ち $x=0$ なる點に於ては

$$\dot{V} = \dot{V}_s$$

$$\dot{I} = \dot{I}_s$$

と與へるならば (8.2.11) 式より $x=0$ とおき

$$\dot{I}_s = \dot{A} + \dot{B}$$

$$\dot{V}_s = \sqrt{\frac{\dot{Z}}{\dot{Y}}} (-\dot{A} + \dot{B})$$

を得る。この式より

$$\left. \begin{aligned} \dot{A} &= \frac{1}{2} \left(\dot{I}_s - \sqrt{\frac{\dot{Y}}{\dot{Z}}} \dot{V}_s \right) \\ \dot{B} &= \frac{1}{2} \left(\dot{I}_s + \sqrt{\frac{\dot{Y}}{\dot{Z}}} \dot{V}_s \right) \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(8.2.13)$$

即ち $\dot{A}' = \dot{I}_s$

$$\dot{B}' = -\sqrt{\frac{\dot{Y}}{\dot{Z}}} \dot{V}_s$$

故に之を (8.2.12) 式に代入すると

$$\left. \begin{aligned} \dot{I} &= \dot{I}_s \cosh(\beta+ja)x - \sqrt{\frac{\dot{Y}}{\dot{Z}}} \dot{V}_s \sinh(\beta+ja)x \\ \dot{V} &= \dot{V}_s \cosh(\beta+ja)x - \sqrt{\frac{\dot{Z}}{\dot{Y}}} \dot{I}_s \sinh(\beta+ja)x \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(8.2.14)$$

上式に於て

$$\sqrt{\frac{\dot{Z}}{\dot{Y}}} = \sqrt{\frac{r+jx}{g+jb}} = \sqrt{\frac{R+j\omega L}{G+j\omega C}} = \dot{Z}_0 \text{ (特性インピーダンス)}$$

と置き換へると

$$\left. \begin{aligned} \dot{I} &= \dot{I}_s \cosh \dot{\gamma}x - \frac{1}{\dot{Z}_0} \dot{V}_s \sinh \dot{\gamma}x \\ \dot{V} &= \dot{V}_s \cosh \dot{\gamma}x - \dot{Z}_0 \dot{I}_s \sinh \dot{\gamma}x \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(8.2.15)$$

上述に於て見る如く \dot{Z}_0 なる特性インピーダンスは分布定数回路を對稱四端子回路網と考へた時の影像インピーダンス或は反復インピーダンスに對應するインピーダンスである。又 $\dot{\gamma}x = \theta$ と考へれば (8.2.15) 式と (3.5.1) 式と比較して之は影像傳達定數に對應するものである。

受電端の電壓、電流が與へられた場合には受電端を基準に取り、受電端を $x=0$ とし、 x の符號を逆に考へればよい。 $x=0$ に於ける電壓、電流を \dot{V}_r 、 \dot{I}_r と與へれば前と同様にして任意の點 x に於ける電壓、電流 \dot{V} 、 \dot{I} は

$$\left. \begin{aligned} \dot{V} &= \dot{V}_r \cosh \dot{\gamma}x + \dot{Z}_0 \dot{I}_r \sinh \dot{\gamma}x \\ \dot{I} &= \dot{I}_r \cosh \dot{\gamma}x + \frac{1}{\dot{Z}_0} \dot{V}_r \sinh \dot{\gamma}x \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(8.2.16)$$

今此の回路の全長を l とし、両端の \dot{V} 及 \dot{I} の値を \dot{V}_s, \dot{I}_s 及び \dot{V}_r, \dot{I}_r とすると $\dot{V}_s, \dot{I}_s, \dot{V}_r, \dot{I}_r$ の間の関係は、次の如くなる事は容易な證明し得る。

$$\left. \begin{aligned} \dot{V}_s &= A_0 \dot{V}_r + B \dot{I}_r \\ \dot{I}_s &= A_0 \dot{I}_r + C \dot{V}_r \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(8.2.17)$$

$$\left. \begin{aligned} \dot{V}_r &= A_0 \dot{V}_s - B \dot{I}_s \\ \dot{I}_r &= A_0 \dot{I}_s - C \dot{V}_s \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(8.2.18)$$

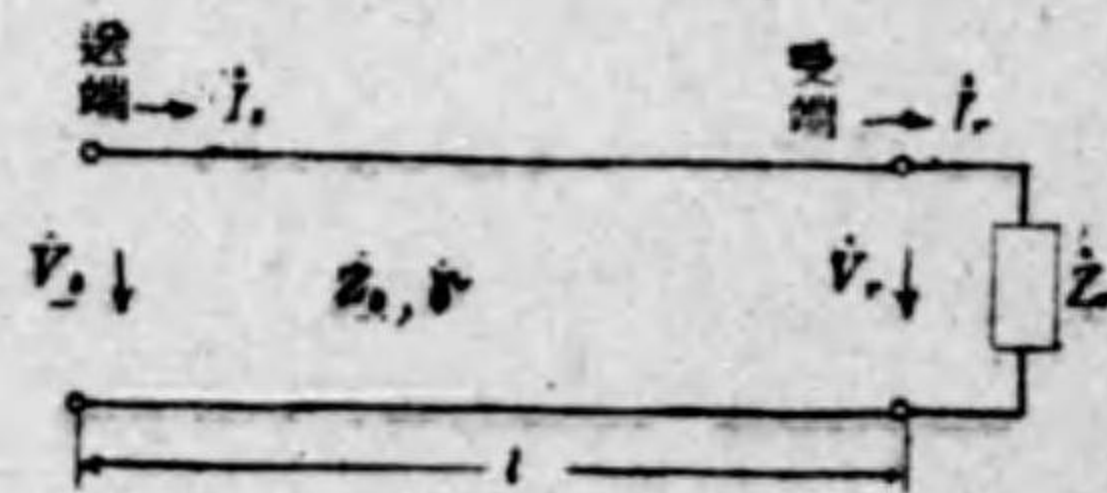
但し

$$\left. \begin{aligned} A_0 &= \cosh \dot{\gamma}l = \cosh \sqrt{\frac{\dot{Z}}{\dot{Y}}} l \\ B &= \dot{Z}_0 \sinh \dot{\gamma}l = \sqrt{\frac{\dot{Z}}{\dot{Y}}} \sinh \sqrt{\frac{\dot{Z}}{\dot{Y}}} l \\ C &= \frac{1}{\dot{Z}_0} \sinh \dot{\gamma}l = \sqrt{\frac{\dot{Y}}{\dot{Z}}} \sinh \sqrt{\frac{\dot{Z}}{\dot{Y}}} l \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(8.2.19)$$

$$\begin{aligned} \therefore A_0^2 - BC &= \cosh^2 \dot{\gamma}l - \dot{Z}_0 \sinh \dot{\gamma}l \cdot \frac{1}{\dot{Z}_0} \sinh \dot{\gamma}l \\ &= \cosh^2 \dot{\gamma}l - \sinh^2 \dot{\gamma}l = 1 \dots\dots\dots(8.2.20) \end{aligned}$$

即ち前に述べた対稱四端子回路に於て四定数間に成立したと同様の事が本回路にも當て嵌るのである。

今特性インピーダンス \dot{Z}_0 、單位長當りの傳播定數 $\dot{\gamma}$ の全長 l なる線路の受電端に \dot{Z}_r なる負荷を接続した場合には (第 8.2.1 圖)



$$\dot{V}_r = \dot{I}_r \dot{Z}_r$$

であるから之を (8.2.17) 式に代入して

第 8.2.1 圖

$$\dot{V}_s = A_0 \dot{I}_r \cdot \dot{Z}_r + B \dot{I}_r$$

$$\dot{I}_s = A_0 \dot{I}_r + C \dot{I}_r \cdot \dot{Z}_r$$

$$\therefore \frac{\dot{V}_s}{\dot{I}_s} = \frac{A_0 \dot{Z}_r + B}{A_0 + C \dot{Z}_r} = \dot{Z}_s \dots\dots\dots(8.2.21)$$

上式の \dot{Z}_s は斯かる場合、送電端から見た全回路の等價インピーダンスでこれを送電端インピーダンス (Sending end impedance) 或は入力インピーダンス (input impedance) といふ。

受電端を開放及び短絡した場合には夫々 $\dot{Z}_r = \infty$ 或は $\dot{Z}_r = 0$ として

開放インピーダンス

$$\dot{Z}_{s,f} = \frac{A_0}{C} = \dot{Z}_0 \coth \dot{\gamma}l$$

短絡インピーダンス

$$\dot{Z}_{s,s} = \frac{B}{A_0} = \dot{Z}_0 \tanh \dot{\gamma}l$$

従つて $\dot{Z}_0 = \sqrt{\dot{Z}_{s,f} \dot{Z}_{s,s}}$

及び $\dot{\gamma} = \frac{1}{l} \tanh^{-1} \sqrt{\frac{\dot{Z}_{s,s}}{\dot{Z}_{s,f}}}$

なる關係を得る。

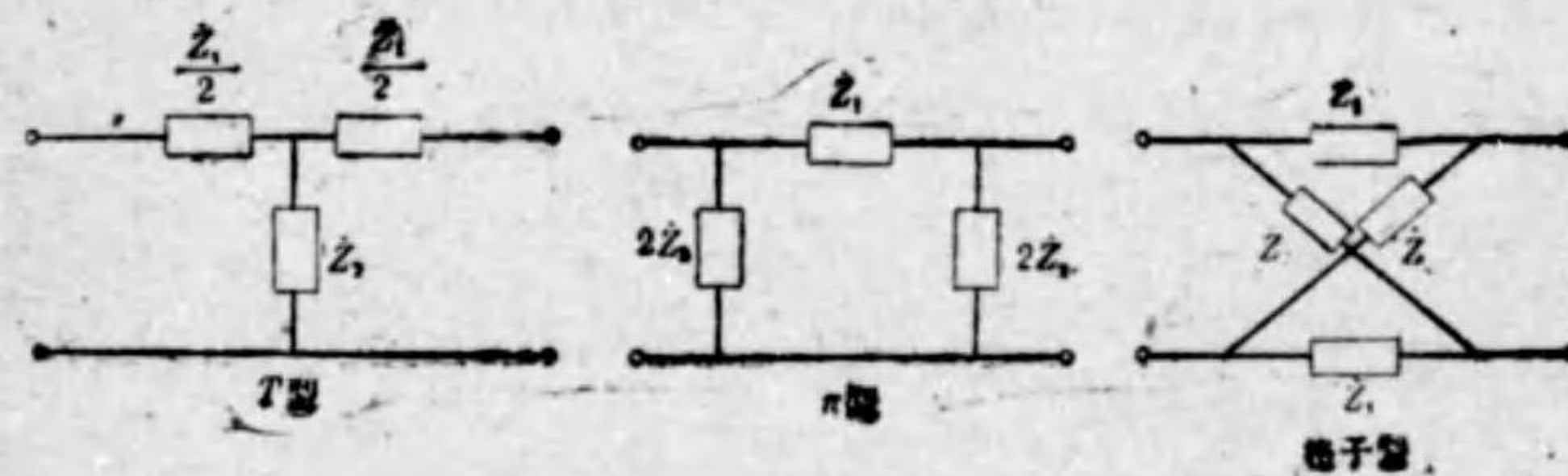
即ち、斯くの如く線路の開放及短絡インピーダンスを測定する事により回路の \dot{Z}_0 及 $\dot{\gamma}$ を求める事が出来る。

8.3 擬似回路網 (Artificial Network)

線路の如く分布せる電氣定數 R, L, C, G を有する回路と電氣的に等價である様な抵抗, 靜電容量, 誘導量及び漏洩量等を適當に組合せて作つた回路網を擬似回路網と云ふ。その構造上より對稱型と非對稱型とに別れることが出

来るが、後者は餘り實用されてゐないから對稱型の例を示す。

對稱型擬似回路網を大別して、T型、π型及格子型の三種があ。が、實際の場合にはこれらのものゝ一個又は數個を適當して接続に擬似回路に作るのである。



第 8.3.1 圖

之等のものは對稱型であるから影像傳達定數と反覆傳達定數に等しく影像イムピーダンスと反覆イムピーダンスは夫々同じものである。

今 T 型回路に就て一例を示すと、一般に圖の如き T 型回路の影像イムピーダンス \dot{Z}_0 及傳達定數 $\dot{\theta}$ は

$$\dot{Z}_0 = \sqrt{\dot{Z}_1 \dot{Z}_2 \left(1 + \frac{\dot{Z}_1}{4\dot{Z}_2} \right)} \dots\dots\dots (8.3.1)$$

$$\dot{\theta} = \cosh^{-1} 1 + \frac{\dot{Z}_1}{2\dot{Z}_2} \dots\dots\dots (8.3.2)$$

で與へられる。故に逆に回路の影像イムピーダンス及傳達定數が與へられると求むる擬似回路 T 型の各素子 \dot{Z}_1 及 \dot{Z}_2 が計算出来る。

即ち上式に於て

(8.3.2) 式より

$$\cosh \dot{\theta} = 1 + \frac{\dot{Z}_1}{2\dot{Z}_2}$$

$$\frac{\dot{Z}_1}{\dot{Z}_2} = 2(\cosh \dot{\theta} - 1) \dots\dots\dots (8.3.3)$$

(8.3.1) 式に入れて

$$\dot{Z}_0 = \sqrt{\dot{Z}_1 \dot{Z}_2} \sqrt{\frac{\cosh \dot{\theta} + 1}{2}}$$

$$\therefore \dot{Z}_1 \dot{Z}_2 = \dot{Z}_0^2 \frac{2}{\cosh \dot{\theta} + 1} \dots\dots\dots (8.3.4)$$

(8.3.3) (8.3.4) 式をといて $\dot{Z}_1 \dot{Z}_2$ を求むると

$$\dot{Z}_1 = 2\dot{Z}_0 \sqrt{\frac{\cosh \dot{\theta} - 1}{\cosh \dot{\theta} + 1}} = 2\dot{Z}_0 \tanh \frac{\dot{\theta}}{2} \dots\dots\dots (8.3.5)$$

$$\dot{Z}_2 = \dot{Z}_0 \sqrt{\frac{1}{\cosh^2 \dot{\theta} - 1}} = \dot{Z}_0 \frac{1}{\sinh \dot{\theta}} \dots\dots\dots (8.3.6)$$

これは同様にして他の π 型、格子型回路に就ても同様に求むることが出来る。

10305

昭和十六年八月廿二日 印刷 納本
昭和十六年八月廿六日 初版發行
昭和廿三年二月十五日 第三版發行

不	回路網理論	復
許	定價九十圓	製

著者 東京都中央區銀座西八丁目八番地
遞試社編集部

發行兼印刷人 東京都中央區銀座西八丁目八番地
吉田寬一

印刷所 東京都中央區銀座西八丁目八番地
遞試社印刷所
印番・東京1312

東京都中央區銀座西八丁目八番地
發行所 遞試社

振替東京73672番 電話銀座04 5471番
日本出版協會會員番號 A第120010號

東京都千代田區神田淡路町二ノ九
配給元 日本出版配給株式會社

通信技術受験講座

◇ 全 十 卷 ◇

- | | | |
|-----|-----------------------|------------|
| 第一卷 | 電氣通信概論 | 近刊 |
| 第二卷 | 有線通信機器及線路 | 近刊 |
| 第三卷 | 無線通信機器 | 80.00 円 10 |
| 第四卷 | 回路網理論 | 90.00 円 10 |
| 第五卷 | 電波傳播理論 | 80.00 円 10 |
| 第六卷 | 電子工學 | 80.00 円 10 |
| 第七卷 | 電氣理論 | 60.00 円 10 |
| 第八卷 | 電氣磁氣測定 | 95.00 円 10 |
| 第九卷 | 電氣機械大意 | 80.00 円 10 |
| 第十卷 | 通信技術者
檢定試験
問題解義 | 近刊 |

東京 遞 試 社 發 行

— 振替東京 73672・電話銀座 5471 —

547.1-Te28ㄅ



1200500746262

547.1
28

終